

盲聾啞兒教育の過去と現在

|| ヘレン・ケラーの教育過程を中心として ||

國立聾啞學校長

川本宇之介

一、盲聾啞兒教育の起り

凡そ人と生れて最も氣の毒であり、堪えがたい苦難を受けねばならぬ運命を負わされて居るものは、謂わゆる三重苦を負んでいる首にして聾啞となつたものであると思ふ。随つてその教育も亦至難であるので、盲人や聾啞者の教育が起されてから後も、長い間、此の三重苦を負わされた者の教育は企てられなかつた。

然るに百十一年前にあたる一八三七年に、米國に於て、二歳の時に猩紅熱で失明と失聽をしたローラ・ブリッチマンと

いう八歳の盲聾啞の女兒が、ボストン市にあつたパーキンス盲學校で、校長ハウ博士の愛情と工夫と精進との總合された力で教育され始め、そして顯著な成功を得たのであつた。ローラの教育が世界的に有名となつたのは、一八四二年に英國の文豪チャールズ・ディッケンズが、米國に遊び、その見聞記「米國雜誌」に、パーキンス盲學校を訪問し彼の女の教育状況を視たり、彼の女と會つたりしたことをみごとな彩筆によつて記されてからであつた。

その教育は、ハウ博士が非常に苦心して工夫された方法で言葉を教えることによつて始められた。先ずナイフ、フォ

ク、スプーン等毎日食事の時につかうものを選び、それに厚紙に押し出した一種獨特のローマ字の凸字をはりつけたりして、指を兩者にふれて觸覺に訴え、文字がそのものの名前であることを理解させることにした。次に、綴字の原則を知らせるために、苦心の結果案出した方法がある。それは金屬性の骰子の各六面に、ローマ字を凸字であらわしたものがそれであつた。觸覺によつて、この骰子の面の文字を選び、ローラがそれを順次にならべていくと、スプーン、ナイフ等の言葉が綴られるわけである。

この方法を以て言葉を教える様になつてから、ローラの言語力は非常に急速に進歩したのであつた。斯くして凸字の單語は勿論、文をも讀むことが出来、ついで速に書くことも出来、兩親に手紙を書く様にさえなつた。それから後に指文字を習つて自由に心持よく言語生活をなし得るに至つて、その知識と言語の進歩は一層顯著になつた。彼女は後に入学して來たオリヴァー・キャスウェルの先生となつて好成绩をあげる位にまで立派に教育された。

二、ヘレン・ケラーの誕生とその性格と智能

その後パーキンス盲學校が中心となつて、米國で可なり多くの盲聾啞者が教育されていつたが、ローラの教育が始められた年から、丁度、五十年後に世界の奇蹟とわかれ聖女と

仰がれるヘレンケラーが教育されるに至つたのである。

ケラーは一八八〇年に生れ、生後十九ヶ月目に突然猛烈な胃や腦の病氣にかかつて二三日の間に眼と耳の兩感覺が働かなくなつてしまつた。元來ケラーの家庭はアラバマ州タスカンビア町という田舎町にすんでいたが、教養の高い父母であつた。彼女の母は前に記したデイッケンスの「米國雜誌」を讀んでローラの教育された經過を知り、我が子の前途に光明を認めて欣喜雀躍にたえなかつた。そこで彼女の父はケラーをつれてワシントンにゆき、電話發明者として有名な、そして又聾教育にも因縁の淺くないアレキサンダー・グラーム・ベル博士を訪問し、ケラーの教育について相談した。ベル博士の紹介によつて、パーキンス盲學校長に彼女の家庭教師（推薦を依頼した。この時選ばれたのが、卒業したばかりの強い弱視のアンニー・サリヴァン嬢（一八六六年生れ）であつた。サリヴァン嬢はブリッヂマンにも接しこれを觀察し、盲聾啞者の教育について、興味をもち發分考えていたこともあつたので、快くこれを引受けたのであつた。

サリヴァンは、幾百哩を遠しとせず一八八七年三月二日にヘレンの家に到着し、翌日から教育し始めた。サリヴァンがヘレンにあつて驚いたことは、ヘレンはローラとちがつて身體の發育は極めて良好で生活力は強く、その動作は寧ろ亂暴な位に活潑で、精神は元氣に満ちあふれ、意志は強固で、智能は頗る優秀であり、又記憶力は甚だ盛んであつた。サリヴァンがヘレンに従順の徳を教えこむのに苦心するところが少

くなかつた。然しこれらの特色ある性格と明敏な頭腦とは後年、彼の女の大成の基本的要件であつた。

ヘレンが教育されていつた経過を簡單に記して見よう。サリヴァンはパーキンス育學校より贈られたお人形をもつていき、これをケラーの手に觸れさせると共に、指文字でドールという言葉を教えた。このやり方は、言葉を凸字から教えていつたローラの時とは順序が反對であつた。これは堅く感ずる凸字よりは、觸覺に柔か味を感じ、學習の成績がよいことがわかつていたからであつた。然し、始めは彼女は、何のこともやらさつぱり理解出来なかつた。凡てのものに名前のあることを納得せしめるのに、二週間もかゝつた。けれどもこのことが理解されはじめると、その進歩の急激なことは驚くばかりで、二ヶ月後の五月初めには、既に三百の語彙を、四ヶ月後には、多數の固有名詞の外、言葉を四百も記憶し、ローラが二年以上かゝりて覺えた言葉數以上を僅かに四ヶ月で習得してしまつた。「これはサリヴァン嬢のパーキンス育學校長への六月十九日付の報告書の一節である。

三、サリヴァンの教育的手腕

つぎにサリヴァンのとつた教育は讀書であつたが、最初は、當時用いられる様になつた點字でなく、凸字をつかつて、綴字と單語を理解せしめ、ついで之を書くことを教えた。これによつて、ヘレンは、その觀念を正確にし、思想をよく整理することが出来る様になつた。この凸字の読み書き

が一通り出来る様になつてから、點字に移つた。この點字を授けてからの、讀書力の進歩は驚異的であり、知識の發達も亦愈々顯著となつて來た。サリヴァンは、別に教育に關する専門的知識がある譯でなかつたが、なか／＼熟達した、また見事な手腕と見識とをもつていた。先ず教育の手初めに子供のようにお人形を興えた如く、常に觸覺によつて知り得る實物とヘレンの知りたがるものとに注意し、彼女の心の動きをよく觀察して、それと言葉とを連絡し、その生活と言語とを緊密に結合せしめた。その一二の例をあげてみよう。

サリヴァンは前記報告書の一筋に、私はヘレンと「一緒に歩いて居る時に、たえず指文字を綴り、これに伴つてスキッピング・ホッピング、跳躍・走行・駈歩・緩行等の動作をいたします」と記してある。又、ヘレンが水とその容器である壺とを混淆し、先生との間に兩者の言語とその意味とにいつて争つたことがあつた。ヘレンが我意を通してやまなかつたので、一旦争うことをやめて戸外に連れだした。丁度その時、或る人が水を汲んでいるのを見て、彼の女の手に水を受けさせ、同時に水という指文字を他の片手に綴つて教えた。そこではじめて、ヘレンは水と水壺との相異を明瞭に納得したのであつた。サリヴァンの教育的機智は實に數算に餘りあるものがある。

斯様にして、ヘレンの教育は、二年半程家庭で行われた後、一八九九年十月になつて、ボストンにゆきパーキンス育學校に入學した。此處で彼女は多くの友達を得て自分の痛

苦を忘れる程愉快を感じ、前途の光明を認めると共に一層學業に精勵したのであつた。翌年偶然にヘレンの穎才の閃きを知る事件が起つた。一言書き加えておこう。ヘレンの郷里は海岸に遠い地方であつたので、勿論海を知る筈がない。翌年の夏海水浴にいつて初めて海にはいり、波にうたれて恐怖心を起したが、海水の鹹いのを味わつてサリヴァン先生に訊ねた言葉は、「誰が海に鹽を入れたのか」という言葉であつた。

四、話し言葉の習得とその努力

翌一八九〇年になつて人間久遠の、憧憬である言葉を語りたいという本能が極めて猛烈に起つた。サリヴァン初め多くの人が、そのためにヘレンの教育の進歩をおくれさせるといふ心配から、反對した。ところが、ヘレンはどうしても承知しないで、無理矢理にせがんで、先生の許しを得てボストンにあつたホレスマン聾學校にゆき校長サラフラー先生について發音を學び、簡単な言葉は相手の口唇に指をあててこれを理解し、且つ口で話す様になつた。

その教育の方法はこうである。先ずヘレンがその手指をフラー先生の口唇にあてて、先生の發音を學ぶのがその最初である。彼女の自傳にこのことをこう書いてある。「私は彼女（フラー先生を指す）が、一音を發する毎に、彼女の顔の上を手をあて、その唇の運動や舌の運動を探つて眞似をしました。一時間に六ツの音の要素 (m. p. a. s. t. i.) を覚えてきました」。斯様にして、ヘレンは發音を學び漸次その音素

を綴つて *pat, pi,* 等の音節を發し、ついで音節を組合はせて言葉を發する。たとえば以上の六音中の例で言えば *Sir, napt* という語がつゞれて發語が出来るであらう。ヘレンは既に言語を澤山もつて居り、その發語を覚えさせればよいわけであるから、その進歩は極めて迅速であつた。間もなく、簡単な文をも發語出来る様になつた。この時のよろこびをヘレンはこう述べている。私は私の最初の一文である *It is warm to-day.* (今日は温い) を語つた時の驚歎と歡喜は終世忘れることは出来ないでしょう。實にそれはますい發語であつたでしょう。しかし、それは疑もなく人間の言葉でした。かくて私はこれによつて永い間の煩悶から救ひ出されました。向上心の強いヘレンはその後ニューヨークのライト聾口話學校に入學して、一層發語と觸讀による言語理解との鍊磨につとめ、また現に大學卒業後に於てさえ、發聲法の専門家について、學んで少しでも明晰な音聲と語調とで話したいという努力を拂つたのであつた。

五、女子大學入學と刻苦勉學

然るにケラーの向上心はいやが上にも高く且つ強くなり、大學教育を受けたいという熱望を起し、その準備として先ず女學校に入學して、大學入學に必要な學科目を特別の先生について勉強した。然し學習は指文字や點字でなければならぬので勉強はすべてサリヴァン女史の不撓不屈の努力によつて中介されて行われた。かくて一八九九年滿十九歳の年に、彼

女は、英語、佛蘭西語ギリシヤ語ラティン語は勿論、代數幾何までも、他の學生と同一問題について嚴重な試験を受けて見事合格し翌年に目出度くラツドクリフ女子大學に入學の榮冠をかち得、四年後に立派な成績を以て卒業し、世界の奇蹟と稱えられるまでになつた。

ケラーが大學で學んだのは主としてギリシヤ及びローマの歴史とその古典と哲學とであつた。ところが之に要する點字本が少くないために學習は一層の困難を覺えた。多くの人から贖出された學資金は點字本をつくつたり、英獨二國よりこれらの點字本を購入することにつかわれた。サリヴァン女史は、ヘレンの影の如くつきそつて學習をたすけたことは言うまでもない。その勉強の猛烈であつたことはブラッティー女史著『アン・サリヴァン・メーシー、ヘレン・ケラー嬢の影の話』中の二句がこれをよく示している。ヘレンは「その指端が血ににじむ程にも點字本を讀んだ。彼女の先生はその指を絶えず働かせて綴字をした。」「教室での講義の時間中にも、休養の愉快な時間中にも、亦夜間も他の人が床に就いた遙か後に至るまで、彼女の忙しい指は、はてしもなく見える仕事に迅速に働いていた。」

六、最近の聾盲兒の教育狀況

ごその方法の進歩

米國に於て聾盲兒の教育は、ヘレン、ケラーの名聲によつ

て、現に世界的になつたが、彼女の外、その前後に相當多くの三重苦の人々が教育された。歐洲にもこれに刺戟されて、勿論その計畫が起つて、實現され、特にスウェーデンとドイツの二國では、獨立の學校が十九世紀の終に近い頃と二十世紀の初期とに設けられる様になつた。筆者は今から二十五六年前に米國で數名、デンマークと英國で三名だけ斯様な生徒や成人に出あつたが、不幸にして獨逸の學校は知らなかつたので接する機會はなかつた。ところが一九三一年、パーキンス盲學校は再び盲聾者の教育に力をいれだして、他所からウインスロップチャブマンとドナルドディー等が入學して來た。これに刺戟獎勵されて、他の學校にも斯教育を起す様になつて、昨年十月には、米國ではパーキンスの外、數校の盲學校や聾學校で二十三名の多數が教育されている。アフリカ土人の盲聾者さえも、米人によつて教育される様になつた。實に米國文化の偉大さには驚歎されるではないか。

ところがその言語教育の方法は、従前のそれよりは、大いに進歩した方法を採用するに至つた。それはアイニスホール女史が、聾て聾兒の發語指導にあつて用いた所謂觸讀話法(Tactil method)を採用したからである。この觸讀話法というのは、ヘレンケラーがフラー先生に發語を學んだやり方と同じである。即ち生徒が先生の口唇に指をあて、先生の發語を理解し、また發音發語を學ぶのである。勿論點字は學ぶことは言うまでもないが、他人との直接の思想交換は、凡て

この觸讀話法と發語により、絶對的に他の符牒言葉である指文字等を教えないのである。故に口話中心方式と言つてよいであろう。ローラの教育方法は凸字と指文字が中心で、ついで點字が教えられたが、スピーチは全然教えられなかつた。故に沈黙法と稱すべく、ヘレンケラーに對する言語教育方法は指字と點字が主で、ついで口話法が用いられた。故に手口共用法といつてよいであろう。その方法の進歩も亦甚だ偉大なものがあることを、何人も直感されるであろう。昭和八年に、米國で開れた萬國聾教育會議に、筆者は日本代表として出席した際、聾教育の研究會の節シカゴで、ついでパーキンス盲學校でその教育を觀察する機會があつた。委しいことはこゝで書くいとまはないが、六歳のドーディーがホール先生の口唇に指をあて、先生が「走りなさい」「右をまわれ」「手をたたけ」など言つと、ドーディーはその通りにする。籠の中にいれてある動物や果物、玩具、その他庶物をいれてあるうちより、觸讀話によつて先生の語つたものをつとり出すことは、あやまることが稀であつた。斯様に簡單な名詞は樂に理解するだけでなく、その中のいくつかは相當明瞭に言うことが出來た。一・二三という様な數詞も理解もし、又發語もする。一年三ヶ月で百二十の言葉を理解し「戸棚から毛布を出して、それを床の上に布き、その上に坐りなさい」という様な長い言葉もわかる位になつた。

チャプマンは、當時十八歳であつたが、パーキンス盲學校の小學校部を卒業し、その年の九月に中學部に入りラティン

語や佛蘭西語を學んでゐるのを見た。ホール先生が彼に「シカゴであつた日本の紳士」だといつて紹介して呉れたが、彼は直に「ハウ・ドウィー・ドウィー、ミスター・カワモト」と挨拶をした。彼の記憶のよいには、私は驚かされた。彼はヘレンケラーの様に大學に入學する希望をもつて大いに勉強してゐた。恐らくは大學に入學したであろうと思はれるが、二三回程、パーキンス盲學校であつた彼に關する記事を讀んだが、ホール女史は彼をつれて南米からアフリカ地方までも旅行した様であつた。故に多忙のために大學入學まで進んでいかなないも知れない。戰爭になつて後、私には彼の消息がわからないのは遺憾である。

七、私の抱く残念と願望

昭和十二年にヘレンケラー女史が訪日された時、三重苦を克服した體験を述べて、自分の今日あるを得たのは第一に先生のお蔭であり、第二に私共の努力精進の結晶であり、第三に神様が私に強健な身體を與えて下さつたことであると述べて、天來の奇蹟扱いにするのに反對されてゐたことを私は、今でもよく記憶して居る。實際それに相違ない。たとえ我が國にケラー女史に近い様な天分や健康な身體をもつてゐた三重苦の人があつたとしても、一人のサリヴァン先生のない過去と現在では、ケラー女史の足跡さえも履むことの出來る者があらわれない。それからまた、師弟共にあれだけの刻苦精勵を積み得るかどうかも亦、その成否に大關係がある

ことは、言うまでもない。然しヘレンに對して、社會の濫い理解と厚い物質的授護がなければ、彼の女が大學の門をくゞり、立派な思想家としてたゞ基礎は、決してつくれなかつたであろうことも亦眞實である。我が國ではどうしてこれを期待出来るであろうか。私は十數年來この教育を計畫したがいろ／＼の事情から、今日まで實現出来なかつた。これを思えば、我が國の社會と文化との水準が低く、今日においてさゝ容易にこの教育を起し得ないことを思うと、實に返す返すも残念至極であり、また耻しい限りである。

我が國でこの教育をはじめることが出来なかつた原因の一つは之をやり遂げようという様な先生を得られなかつたことが、最も重大原因の一つであつた。そこで私は切望してやまないことは、本誌の讀者のうちから、直接養育兒の教育に少くとも五年十年、努力を献げようとする方が、一人でもあらわれ、又いろ／＼の社會的授護について直接間接にやさしくもまた力強い手を差出して頂く方を求めたい。私は今日こそ私の長い念願を實現するに逸することの出来なない好機であると思つて、その計畫をすゝめたいと努力し、社會的に廣く御願して居る所である。何卒、皆様方に共鳴して頂きたいと、心から願望してやみません。

關東保育連合會の結成

關東保育協議大會は、五月二十三日、浦和市埼玉縣師範學校女子部講堂で開催せられた。三百餘會集の大盛會裡に、關東保育連合會が結成せられ、つゞいて協議會(協議題)が今後における保育の方向とその具體的方策についてが活潑に行われ、又七月の奈良大會に提出の議案を議せられた後、午後は、神奈川県川崎市みのり保育所の宮下健彦、千葉縣茂原保育園の篠原かず子、群馬縣澁川町幼稚園の後藤ちえ子、東京都千代田區若町幼稚園の徳久孝子、埼玉縣愛泉寮長キョウクリヒ、諸氏の有益な研究發表があり、次回協議會を神奈川縣に開くことを決して、和氣あい／＼の間に、幼兒保育の意氣を擧げて散會した。

○關東保育連合會申合せ

- 一、本會を關東保育連合會と稱し事務所を當番都縣の保育連合會内に置く
- 二、本會は全國保育連合會關東地區會とする
- 三、本會は關東に於ける保育關係者の親睦連絡と普及發達を圖るを以て目的とする
- 四、本會は前項の目的を達成する爲に次の事業を行う
 - 1 關東保育協議大會の開催
 - 2 その他必要と認める事業
- 五、關東保育協議會は毎年一回開催し關東保育共通の問題の協議研究發表及び次回開催地を決定する
- 六、本會の事務は當番制とし次回關東保育協議大會開催地の保育連合會で行うものとす